

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2007年5月)
 ~弱めの結果。4-6月期の消費鈍化を示唆~

発表日 2007年6月8日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL : 03-5221-4528

原数値	景気の現状判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の現状判断(水準)			
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連
06年 6	49.1	47.3	50.1	58.2	51.8	51.3	50.7	57.4	46.3	43.5	48.7	59.3
7	48.4	46.5	50.1	57.2	49.8	49.0	48.8	57.0	45.2	42.3	48.1	57.8
8	50.2	49.1	49.1	59.8	51.5	51.0	49.9	58.4	47.3	45.3	47.6	59.4
9	51.0	49.2	51.2	61.2	52.8	52.5	51.2	58.0	47.6	44.8	49.9	60.9
10	50.8	49.1	51.2	60.6	52.5	51.9	51.3	59.3	47.8	44.9	50.4	61.2
11	48.9	47.5	49.6	56.0	49.7	49.3	48.1	56.2	46.4	43.3	49.7	59.0
12	48.9	47.6	50.2	54.5	48.9	47.9	49.8	53.3	46.4	43.7	50.1	56.0
07年 1	47.2	45.7	47.3	56.3	50.9	50.6	49.8	55.1	44.4	41.3	47.1	58.3
2	49.2	47.9	49.8	55.9	52.1	52.3	49.6	55.9	46.8	44.1	49.8	57.4
3	50.8	49.9	50.9	56.3	51.3	51.6	47.9	56.6	47.8	45.2	50.1	59.2
4	49.7	48.2	50.4	57.1	51.9	51.4	50.7	57.2	46.8	44.1	49.7	57.9
5	46.8	46.4	45.9	50.7	50.0	50.0	47.7	55.0	44.0	42.3	44.7	53.4

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

季節調整値	景気の現状判断(方向性)							
	DI				前月差			
	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		
06年 6	48.9	47.0	49.9	59.0	-1.9	-2.5	-0.2	-2.0
7	47.4	46.2	48.9	57.1	-1.5	-0.7	-1.0	-1.9
8	50.0	49.0	49.1	58.4	2.6	2.8	0.2	1.3
9	51.2	49.9	50.7	58.5	1.2	0.9	1.6	0.1
10	51.8	50.7	51.4	59.1	0.6	0.8	0.7	0.6
11	50.4	49.1	50.9	57.9	-1.5	-1.7	-0.5	-1.2
12	50.9	48.9	52.4	57.4	0.5	-0.1	1.5	-0.5
07年 1	49.4	47.4	51.0	57.6	-1.5	-1.6	-1.4	0.2
2	49.9	48.5	50.4	57.1	0.5	1.1	-0.6	-0.5
3	48.1	46.9	48.4	55.0	-1.7	-1.6	-2.0	-2.0
4	47.4	45.9	47.6	54.7	-0.7	-1.1	-0.8	-0.4
5	46.1	45.3	45.6	52.2	-1.3	-0.6	-2.0	-2.5

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」より第一生命経済研究所試算

○ 弱めの結果

5月の景気ウォッチャー調査は、現状判断DI(方向性)が46.8と前月から▲2.9ポイント悪化し、2ヵ月連続で「景気の中立」を示す50を下回った。内訳をみても、家計動向関連、企業動向関連、雇用関連とも前月を大きく下回っている。また、先行き判断DIも50.0と前月から▲1.9ポイント悪化した。なお、季節性を排除するために季節調整をかけてみた場合でも、現状判断DIは全体で46.1(4月47.4)、家計動向関連で45.3(4月45.9)、企業動向関連で45.6(4月47.6)、雇用関連で52.2(4月54.7)とそれぞれ前月から悪化している。全般的に悪化しており、弱めの結果である。

○ 5月の消費関連統計はやや弱含む可能性も

5月の消費動向をいち早く把握するという観点から注目されていた家計動向関連は45.3(季節調整値、以下同じ)と、4月(45.9)から低下した。百貨店や飲食、旅行は前月から改善したものの、スーパーやコン

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

ビニエンスストア、家電量販店などが悪化した影響が大きかった。5月については、天候は比較的良かったのだが、ゴールデンウィーク明けに消費者の動きが鈍ったとのウォッチャーの声が目立っている。

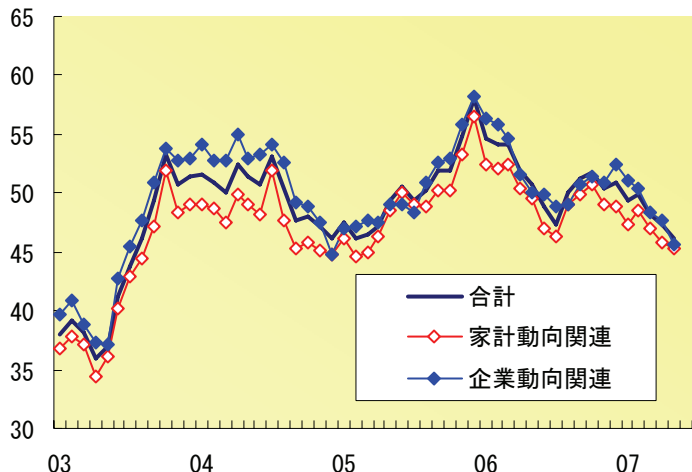
この結果からは、5月の消費関連統計は4月と比べて若干悪化する可能性が示唆されている。もちろん他の消費関連統計が景気ウォッチャー通りの結果になるとは限らないが、注意しておくに越したことはない。

4月の個人消費関連統計は、低調な財消費をサービス消費が支える形で比較的底堅い結果だっただけに、仮に5月の消費も良ければ、4-6月期の消費も堅調という見方が広がる可能性があったのだが、そううまくはいかなかったようだ。やはり、4-6月を均してみれば個人消費は鈍化する可能性が高いということだろう。元々、高い伸びとなった1-3月期のGDPベース個人消費には天候要因による押し上げの面も大きかったと思われる。所得の伸びが限定的なこともあり、個人消費に強気になるにはまだ早いだろう。個人消費は、振れを伴いつつも基調としては所得の伸びに見合った程度の緩やかな回復が続いていると判断したい。

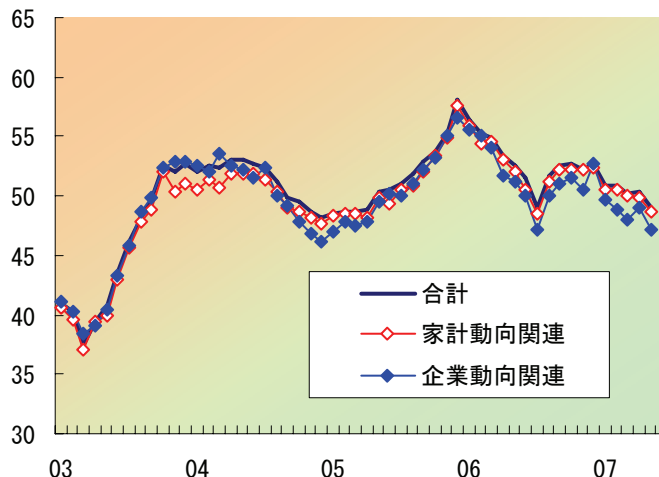
○ 企業部門の悪化が目立つ

企業動向関連も前月から悪化した。特に製造業の悪化幅が大きい。先行き判断D Iも悪化しており、弱めの見通しが増えている。IT部門の生産調整に伴う売上減少や、原材料価格の上昇などが企業のマインドに影響を落としているようだ。景気ウォッチャー調査と鉱工業生産は似た動きをすることが多いため、先行きの景気をみる上で気掛かりな動きである。

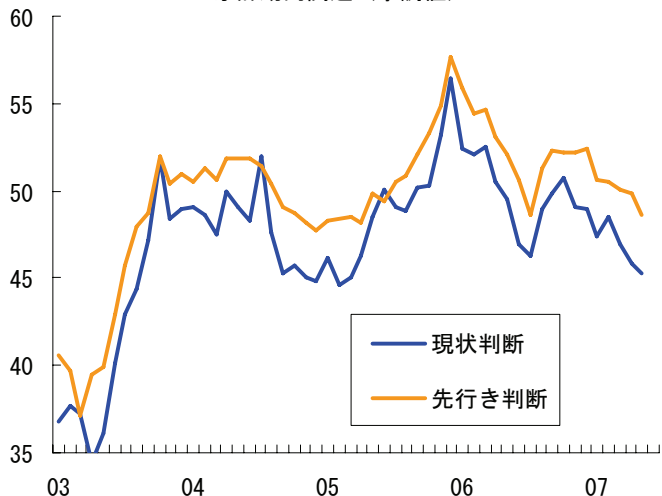
景気の現状判断D I（方向性、季調値）



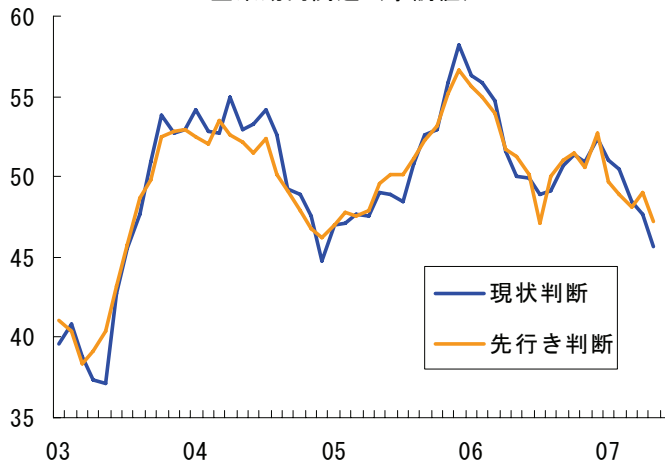
景気の先行き判断D I（方向性、季調値）



家計動向関連（季調値）



企業動向関連（季調値）



（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」

（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」